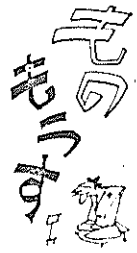


お茶の間



みなさんの声、意見を  
お寄せください!! 六百  
字以内!!

市政会議について

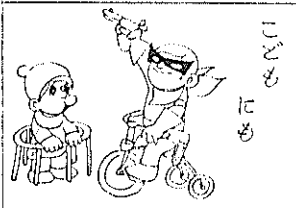
質問者の層を広く

市連合婦人会はことしの「市政  
会議」をさる八月に行ない、四回  
開いたことになる。

したがって市政にかんする意見  
を広く発表する機会が少ない婦人  
が、そのチャンスを持ち、市議や  
執行部上層の答弁を得て市政の学  
習はできた。

だが、質問や要望に立つものは  
毎年のように、型にはまった顔ぶ  
れで「またか!」の思いを持たず  
にはいられない。もともと傍聴し  
ている会員も学習できるわけだが  
ただそれだけのものという感じ  
がする。

質問者の層を広くする、いいか



(後免・三谷)

シールは回収箱へ

少年補導センター

高村 愛

貝岡のみ冬の城趾に電球転ぶ

田村 博子

賢庫仏まだ葉いが御手に霜厚し

溝 淵 由紀男

里衣の女来て枯野の匂ひ運び去る

山中 日 爽

たたげば鳴る空室の五六本

小笠原 淳

空枯れる葉群細羽を入れ

永 田 培 喜

大葉櫻葉華を今に枯芒

山 本 寿 雄

冬鳴あじつと仁王の眼が捉へ

島 崎 洗 一

寒鯉の太群に序あり養鯉池

岡 崎 ひとし

枯れて城跡むかしむかしの陽が

あたる

前田 繁 月

冬籠を緊めて出日金調で生く

岡 崎 美 枝

蘭塔の文字読み難く冬芽の艶

高 村 三 壽 子

朽らぬ碑の上に大朝枯れんとす

池 瀬 章

見つめられみの虫渡のなかの冬

若 草 新 年 句 会

和 泉 英 子

冬芽赤し山ふところの陽のこぼれ

小 松 ふ み

碑が残る国片枯野の志となる

公 文 政 子

あかい冬木葉碑がしりと冬を

抱く

徑運にし農夫一日中真照

和 田 三 三 子

野茨の葉カラ澁に熟れまぼろしの

城

和 田 幸 紀

海光つかぬ葉群の頭にも木の葉

ふる

竹 内 て る 子

枯葉まといぬ光堂に月と寝

る 西 本 か ま 子

漢すでに嘸きし呼吸寒野に

大 田 新 章

冬の牧場馬買なき野に犬吠ゆる

北 岡 高 子

天水に寒鯉の朱高なせる

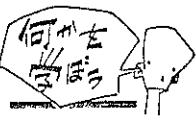
馬 場 さ え

寒鴉丘の西に酔ひ発たす

甲 藤 黒 老 三

冬鳴動かず裸の桐が空つかむ

くそ 度胸



むかし、ある仙台の  
士が「はたごや」に泊  
り、同宿の客が互に非  
を問むのを見ていたが、なかに一  
人ずぬけて妙手がいて、くる者く  
る者を打ち負し、しかもごう然と  
構えているのが、側で見ている  
かにもシヤクにさわったので、  
「へたな打ち方かな」とその男を  
笑った。

するとその男は怒って、では一  
局と戦いをいどんだ。仙台の士は  
「では千両をかけよう」と、もち  
かけると、その男が「千両はおろ  
か百両も持っていない」と言うや  
それでは貴殿の生首をかけよう  
と言ったので、男は、その勢にのま  
れてコソコソとその場を逃げ去っ  
た。  
ところが仙台の士は実のところ  
一度も石を手にしたこともなく、  
その打ち方も知らなかったという  
ことである。